

日本中国学会会報

NIPPON CHŪGOKU GAKKAI

1995年(平成7年)

4月17日

第1号

〒113 東京都文京区湯島1-4-25 斯文会館 電話 03-3251-4606
FAX 03-3251-4853

ご挨拶

理事長 石川 忠久

一般の阪神大震災に遭われた会員各位に対し、まずここに心からお見舞いを申し上げます。

このたび、図らずも理事長に推され、大任を荷うことになりました。菲才の身、もとよりその任ではありませんが、幸い伊藤漱平前理事長とは職場を同じくし、また同氏にはあと1年理事として留まっていただけなので、何かと心強く、無事任期を全うできればと存じております。

さて、今年はあたかも終戦50年に当たり、世間ではいろいろな動きが起こっております。本学会も、戦後間もない発足で、平成10年10月10日には創立50年の記念の式典を開催し、記念事業を実施することになりました。さしあたって、今期はその準備が重要な課題となります。

また、会員の増加に伴う運営の在り方、役員の新陳代謝の進め方等、学会の活性化についての問題、中国及び中国学を研究する諸外国との提携・交流等、学会の国際化についての問題など、当面為すべき内外の課題が山積しております。

会員各位におかれましては、この際何とぞ積極的な御支援、御鞭撻を賜りますよう、衷心よりお願いする次第であります。簡単ですが、就任に当たってのご挨拶と致します。

平成7年4月吉日

〈新理事長の横顔〉

1932年 東京生まれ、63歳。1955年 東京大学文学部中文科卒業。62年 同大学院満期退学。66年 桜美林大学文学部助教授。72年 同大学教授。78年 中文科長。86年 文学部長。90年 桜美林大学退職、名誉教授。同年 二松学舎大学大学院教授・中国学専攻主任。92年 東京大学より博士学位取得(論文「陶淵明研究」)。95年 大学院文学研究科長。(至現在)

〈学会等における活動〉

1956年 日本中国学会入会。80年 専門委員(現学術専門委員。至現在)。81年 評議員・理事(至現在。理事でないときは監事)。95年 理事長就任。
その他、日本学術会議会員(91年より、15期・16期)。全国漢文教育学会会長。日本道教学会理事。(財)東方学会評議員・地区委員。

〈著書〉

「陶淵明とその時代」(研文出版。学位論文の増補版) 「玉台新詠」(学習研究社)
「漢詩の魅力」(時事通信社) 「漢詩の世界」(大修館書店) 他多数。

再度の劉郎 退任の辞

前理事長 伊藤漱平

先ず以て、先般の阪神大地震に遭われた会員諸氏に対し、遅ればせながら心からお見舞い申し上げます。

さて、この3月末を以て、私は2年の任期を終え、会務練達の石川忠久新理事長に大任を引き継いだ。昭和62年から2年間、最初に理事長を勤めたときは、退任に際して「お蔭を以て大過なく」という決まり文句が使えたのであるが、今回は私の油断のためにそうはゆかなかった。

その顛末の前段は、去秋の「会報」第2号にお詫びかたがた記した通りである。その結果開催された異例の通信による臨時総会については、加地伸行議長の別紙報告に詳しいので繰返さない。それにつけても、加地議長を始め、立会人を勤められた会員各位に種々お手数をお掛け致し、恐縮の至りである。また去秋の定時総会出席者約80名の5倍近い会員諸賢が今回通信による総会に参加して下さったこと洵に忝い。理事長再就任以来、私としては、総会出席・役員選挙などを通じての学会の運営への参加を呼びかけてきたつもりであるが、図らずも臨時総会をきっかけとして、通信によるものとは言え、参加率に改善のきざしが見えてきたことは喜ばしい。この機会に改めて会員諸氏が学会の運営により一層関心を深められ、今後総会にも繰合わせて出席されることを期待致したい。

関連して附言する。実は尾上兼英・溝口雄三両監事は、総会直後に揃って私に辞任願を托されたのであるが、両氏は私の慰留の意を諒として翻意され、幹事作成の新「予算・決算書」を監査され、さらにこの程平成6年度決算書の監査にも当たられた。その御尽力に感謝すると共に、ここにこれを報告する。また家井眞・丸山浩明両幹事は、退任に当たり、2年目の慰労金（各月額手当1月分）を辞退された。「会務を統べる」理事長として、私もまた両幹事に倣い、通信による総会開催に要した諸費用（郵送費・印刷費）にはほぼ見合う金子を寄附させて頂いたので、ここに附記する次第である。

最後に、各位の御指導、御鞭撻と御寛容によって、大過はありながら任期を全うさせて頂いたことを感謝申し上げます、退任の辞に代える。

彙 報

◎役員の変更について

平成7・8年度の理事・監事は、選挙の結果それぞれ下記の会員が当選されました。
(敬称略、50音順)

理事長 石川 忠久

理事 〔北海道〕伊東倫厚 〔東北〕中嶋隆蔵 〔関東〕石川忠久 伊藤漱平 伊藤虎丸
尾上兼英 佐藤保 〔中部〕今鷹真 田仲一成 〔近畿〕内山俊彦 加地伸行 興膳宏
〔中国・四国〕下見隆雄 藤原尚 〔九州〕合山究 町田三郎

評議員 〔北海道〕伊東倫厚 大島正二 〔東北〕小川陽一 中嶋隆蔵 村上哲見 〔関東〕
石川忠久 伊藤漱平 伊藤虎丸 内山知也 尾上兼英 佐藤保 竹田晃 戸川芳郎 中野達
福井文雅 松浦友久 丸尾常喜 丸山昇 溝口雄三 村山吉廣 〔中部〕石黒宣俊 今鷹真
佐野公治 田仲一成 〔近畿〕内山俊彦 笈文生 加地伸行 興膳宏 小南一郎 坂出祥伸
清水茂 橋本高勝 三浦國雄 〔中国・四国〕下見隆雄 藤原尚 森野繁夫 山根三芳
吉田公平 〔九州〕秋吉久紀夫 合山究 福田殖 町田三郎

監事 内山知也 中野達

なお、幹事は次の二会員に委嘱されました。

吉崎一衛 名和敏光

◎〈学会展望〉用資料の送付について

『学会報』第47集の編集担当校は、引き続き早稲田大学（責任者は松浦友久会員）に委嘱されました。第47集の〈学会消息〉欄の原稿を、記入責任者から早稲田大学文学部中国文学研究室（〒162 東京都新宿区戸山1-24-1）宛お送り下さい。資料は平成6年1月から12月までのものとします。

『学会報』第47集の〈学界展望〉執筆校は以下の通りです。

哲 学 東北大学文学部中国哲学研究室・代表：中嶋隆蔵会員
(〒980 仙台市青葉区川内)

文 学 広島大学文学部中国語学文学研究室・代表：藤原尚会員
(〒724 東広島市鏡山1-2-3)

語 学 大東文化大学外国語学部中国語学研究室・代表：平松圭子会員
(〒175 東京都板橋区高島平1-9-1)

〈学界展望〉は、会員各位の自己申告に基づいて整理されますので、未申告の会員は4月末までに上記の執筆校へ直接お送り下さい。郵送費は各自ご負担願います。なお、ご申告がない場合は、掲載漏れとなることがありますのでご注意ください。また、研究論文目録に掲載不相当と思われるものは、執筆担当校の判断で割愛されることもあります。

◎本年度大会について

本年度（第47回）の学術大会は、立命館大学が準備会を担当され、10月7日（土）・8日（日）に行われます。（大会準備会からの案内状が同封してあります。詳細はこれについてご承知置きを。）

◎新年度会費納入について

新年度にあたり会則第8条に定められた学会費の納入をお願いいたします。同封の振替用紙をご利用下さい。昨年（平成6年度）の大会総会において会費振込み料金の会員自己負担への変更が承認されたのに伴い、3月末を以て赤色の振込み用紙の使用を終了しました。よって本年4月以降の振込みは、必ず青色の最新の振込み用紙にて納入してください。また、大会時の徴収は、混乱を避けるため行いません。

新口座番号：00160-9-89927 日本中国学会

◎住所変更について

新名簿作成につき、氏名・住所・電話番号・所属の変更は速やかにご通知下さい。特に所属の変更は、地区の移動を伴うことがありますので、ご注意願います。留学される場合は、予定期間と併せて国内連絡先をお知らせ下さい。（通知は書面にてお願いいたします。会費納入用の郵便振替用紙の併用はご遠慮ください。）

◎会員資格の停止等について

会費未納が2年に達した方には『学会報』を頒付いたしません。また4年にわたって滞納されますと、会員資格が一時停止されます。

訃 報

昨年度会報第2号発行以後、次の3名の会員が逝去されました。
駒田信二（関東） 原田種成（関東） 牧尾良海（関東）

◎新入会員の紹介について

次回の新入会員の審査は平成7年度第一回理事会（5月21日開催）に於いて行われます。つきましては入会申込者のご紹介は、5月15日必着にてお願いいたします。期限を過ぎて到着した申込書は、10月理事会での審査を受けることになります。